

# 大運河航行の民船商人 —乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—

松 浦 章

## 要 旨

大運河は中国の物資流通に重要な役割を果たしてきた。とりわけ清代において物流の要として重要であった。しかし具体的には物流の詳細は不明である。そこで現在知られる乾隆二十二年（1757）分『淮安倉徵收過商稅銀兩數目黃冊』に依拠して、大運河を航行して物流に寄与した民船商人の活動の側面について述べてみたい。

キーワード：清代 大運河 淮安關 民船 商人

- 1 緒言
- 2 乾隆二十二年分『淮安倉徵收過商稅銀兩數目黃冊』
- 3 乾隆二十二年、二十三年における商船と水運専門業者
- 4 小結

## 1 緒 言

清朝は各地に設置した税関を監督し、その徴収する毎年の報告書として『徵收過商稅銀兩數目黃冊』、『動撥四稅銀兩數目黃冊』、『動撥灰契小稅銀目黃冊』の三種の黄冊<sup>1)</sup>を作成し、朝廷に報告したことが知られる。

淮安関については、香坂昌紀氏の「清代における大運河の物貨流通—乾隆年間、淮安関を中心として—」<sup>2)</sup>が淮安関（淮関）の成立と、淮関に連なる水路、淮関の税収と流通物資、とりわけ山東、河南の豆貨や淮関以南の豆貨物につい

て考察した。ついで滝野正二郎氏が「清代淮安関の構成と機能について」<sup>3)</sup>において、淮関の沿革、運営と淮関と他地域との交通関係を究明した。また下光明氏の「史上淮鹽集散地」<sup>4)</sup>において淮関と淮鹽の流通関係に触れている。しかし、これらの成果では、淮関を通過した船舶の問題に関しては看過されていると言えるであろう。

さらに大運河を航行した民船<sup>5)</sup>によって商業活動をおこなった商人の存在は明らかにされていない。

最近、中国第一歴史檔案館と江蘇省淮安市人民政府との編集により刊行された『清宮淮安檔案精萃』<sup>6)</sup>に、「淮安關監督普福進呈黃冊」として乾隆二十二年(1757)分の「淮安倉征收商稅銀兩數目黃冊」<sup>7)</sup>が収録されている。この黄冊は1936年3月弁言のある國立北平故宮博物院文献館編『内閣大庫現存清代漢文黄冊目録』には見られないもので、『内閣大庫現存清代漢文黄冊目録』の後に、檔案館の整理によって見出された黄冊であると思われる。

そこで、この乾隆二十二年分「淮安關監督普福進呈黃冊」の分析を通じて、乾隆二十二、二十三年時期の淮安關を通過した民船とその商人の商業活動について探ってみたい。

## 2 乾隆二十二年分『淮安倉徵收過商稅銀兩數目黃冊』

乾隆二十二年分『淮安倉徵收過商稅銀兩數目黃冊』の表紙には次のように記されている。

淮安關監督内務府主事加參級紀錄拾貳次 臣普福恭呈 乾隆貳拾貳年分  
淮安倉徵收過商稅銀兩數目黃冊<sup>8)</sup>

このように表紙に記され、内容は次のようにある。

淮安關監督内務府主事加參級紀錄拾貳次 臣普福謹題爲酌定題銷稅課錢糧  
以昭畫一事

竊臣奉命管理淮安關務所有應徵正額錢糧悉循例舊例照則徵收，令將前監督  
高恒，自乾隆貳拾貳年肆月拾貳日，起至拾壹月初壹日，計兩季零貳拾日。  
臣於乾隆貳拾貳年拾壹月初貳日任事，起至乾隆貳拾參年肆月拾壹日，計

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

壹季零柒拾日，接扣統計壹年徵收過淮安倉商稅銀兩，除將舊管新收開除實在總撤數目，並支銷銀數照例，造冊送部，查核外，理合恭繕黃冊，敬呈御覽謹具題聞。<sup>9)</sup>

とあり，その後，具体的に乾隆二十二年四月十二日（1757年5月29日）より通関商人名と納税銀が記録される。その最初の記録が以下のようにある。

計開

第壹季分 舊管 無

新収

乾隆貳拾貳年肆月拾貳日

商人張祥發等單拾張共納稅銀肆兩捌錢柒分

拾參日

商人李大等單拾參張共納稅銀陸兩肆錢肆分壹釐<sup>10)</sup>

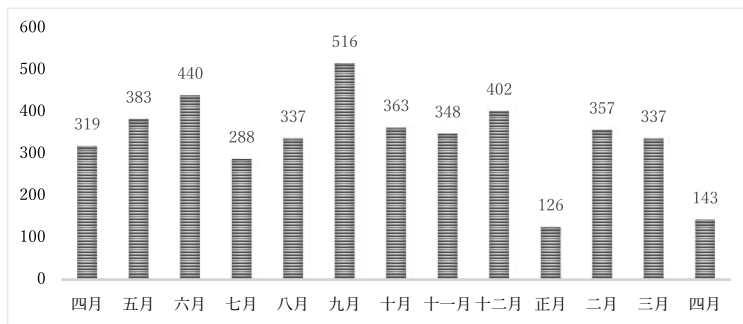
との記録から始まり乾隆二十三年四月十一日<sup>11)</sup>（1758年5月1日）まで記録される。

この黄冊に記録される商人の單の張数を整理すると次の表のようになる。

表1 乾隆22-23年淮安關商稅張数

月	日数	張數	月	日数	張數	月	日数	張數
四月	17	319	九月	30	516	二月	30	357
五月	30	383	十月	29	363	三月	29	337
六月	30	440	十一月	30	348	四月	11	143
七月	29	288	十二月	29	402	合計	353	4359
八月	30	337	正月	29	126			

図1 乾隆22-23年淮安關銷稅張数推移圖



記録された353日間に商人から4,359張が提出されていた。

表1に見る乾隆二十二年四月分と乾隆二十三年四月分を仮に合算すると462張となりほぼ他月と類似するが、顕著な特長は正月の張数が極めて減少していることであり、正月は慣習的に商業活動の休止が見られたためであろう。事実、先の黄冊においても乾隆二十三年正月初壹日から初陸日までの六日間に記録があったのは、初一、肆、伍日のみで他は「無」と記録されている。<sup>12)</sup>

この張数が1隻の通過船から徴収された商税單であるとすれば、4,359張は4,359隻であったことになる。淮安關を通過した商税徴収を受けた船隻が4,359隻であったこととなる。

### 3 乾隆二十二、二十三年における商船と水運専門業者

#### 1) 淮安關の商税

淮安關の税則に関して『續纂淮關統志』卷七、則例の「淮安關淮倉現行徴收淮城清江落地商稅則例」には、

計開

三毫九絲例

磁壇每個 磁礮每個<sup>13)</sup>

とある記述から始まり、

三錢八分六厘例

絲棉每石 銀鼠皮襖褂每件<sup>14)</sup>

とされるまで、およそ56段階の税側が記されている。とくに地名が判明するものとして「九毫七絲例」には「嘉興布每疋」<sup>15)</sup>があり、浙江省嘉興府で生産された棉布が水運で淮安關を通過して北方の地域へ搬出されていたことがわかる。また「一分一厘五毫八絲例」には「茶葉每石」とあり、おそらく浙江や安徽省などの産品が淮安關を通過して北方に運ばれていたことが知られる。さらに、「一分九厘三毫例」に多くの紙類が見られる。

雜紙每塊 油紙每塊

門楸紙每塊 連七紙每塊

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

五色紙每塊 箋紙每塊  
毛邊紙每塊 夾板紙每塊  
黃表紙每塊 連四五紙每塊  
表心紙每塊 皂紙每塊  
單帖每箱紙腳每石<sup>16)</sup>

これらの紙類の一部は福建省  
北西部などで生産された紙類で  
あった可能性が高い。「三分八

表2 乾隆22-23年淮安關通関商人戴宏美の記録

年月日	商人名	張数	商税	平均
220417	戴宏美	25	13.96	0.5584
220514	戴宏美	10	19.525	1.9525
220630	戴宏美	9	5.322	0.5913
220714	戴宏美	14	41.844	2.9889
220807	戴宏美	9	4.49	0.4989
220911	戴宏美	13	56.931	4.3793
221229	戴宏美	8	25.787	3.2233
230326	戴宏美	5	6.939	1.3878

厘六毫例」には「金華肉腿每石」<sup>17)</sup>とあり、浙江省の金華府生産の肉腿の北方への流通とみることが出来るであろう。「一錢一分五厘八毫例」に見える次のものは、中国沿海もしくは海外から輸入されたものであった可能性もある。それが「海參每石 海菜每石 沙魚翅每石 鮑魚每石 海帶每石」<sup>18)</sup>である。海參、沙魚翅、鮑魚、海帶などは、清代嘉興府の平湖縣下の乍浦鎮から日本の長崎に赴く貿易船の日本からの帰帆貨物として輸入された重要な貿易品であった。<sup>19)</sup>また「一錢九分三厘例」に「湖州白絲每石」<sup>20)</sup>とあり、浙江省湖州府下において生産された白絲であったことは確かで、大運河の水路を北に向けて航行し、淮安關を経由して北方の地域に運ばれたと考えられる。

乾隆三十二年（1767）五月二十一日付の両江總督高晋、江蘇巡撫明德の奏摺に次のように、大運河の物流を記している。

凡京城所需南貨，全賴江南漕船帶運，而江南所需北貨，亦賴漕船帶回，若漕船全停，不惟南北貨物，不能流通。<sup>21)</sup>

首都北京で消費される品々は、すべて江南からの漕船の輸送によって供給され、また江南で消費される物資は、漕船が北から搬送する品々に依拠していたと象徴的に語られていた。

乾隆五十一年（1786）九月二十四日付の徵瑞の奏摺にも同様に、

伏查，南省貨物爲京城民間日用所必需，而糧船所帶有江浙之貨，有江廣之貨，江浙之布 疋絲線等物，尚有客商自行販載，惟江西湖廣之竹木・磁器・紙油等物，全賴糧船攜帶。<sup>22)</sup>

と記すように、北京に居住する民衆が日常に使用する品々のほとんどが、南から大運河を通じて北上してくる“糧船”すなわち米穀を輸送してくる帆船によってもたらされた。江南（江蘇）、浙江省の貨物や江浙の織物、生絲の他に、客商の自己選択によりもたらす江西や湖北湖南からの竹材、木材、磁器、紙類や油類などが、大運河の水運が担っていたのである。このように、清代の物流において大運河による輸送は大きな役割を担っていた。

## 2) 大運河を航行する商人

次に、乾隆二十二年分『淮安倉徵收過商稅銀兩數目黃冊』には、毎日の記録には代表として一名の商人名と張数が記録されているが、その中でも353日間に同一商人名が見られる例がある。とくに四度以上も同一名が見られる商人は次のものである。

最も多いのが戴宏美で乾隆二十二年四月十七日から始まり、五月十四日、六月三十日、七月十四日、八月七日、九月十一日、十二月二十九日、乾隆二十三年三月二十六日と八回も見られるのである。おそらく同一商人であった可能性は高いであろう。戴宏美と同日に通関した張数の最も多い日が最大25張でその中で、わざわざ戴宏美の名が記録されたのは、おそらく税関官吏にとって周知の人物か、その日の商税額が最高値であったためであろう。基本的にはその日の商税の最高額を納入した商人であったと思われる。彼を含め銷税額が各回ごとに高低が見られ、推測の範囲であるが、四月は北から南に通関し、五月は南から北へ通関し、六月には北から南に戻り、七月には再び北に赴き、八月には南にもどり、九月にはまた北に向かい、十二月には南に戻る航運を行っていた可能性が高い。税則を見る限り、概して南の物産が多く見られ、その輸送が重要であったと思われる。

商人王永裕は1回目が乾隆二十二年七月十六日（1757年8月30日）、2回目が八月十二日（9月24日）、3回目が十月十七日（11月28日）、4回目が十一月二十九日（1758年1月8日）、5回目が十二月十六日（1月25日）と5度氏名が見られ、1－2回の間が25日間、2－3回の間が64日間、3－4回の間が40

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

日間、4－5回の間が17日間と、1－2ヶ月の間に王永裕は淮安關を通過している。このことから王永裕は、大運河を利用する商船を運航する商人であったと考えられる。

同様な例は、正聚にも見られる。正聚は第1回目が乾隆二十二年六月初七日（1757年7月22日）、第2回目が七月初九日（8月13日）、3回目が七月十七日（8月31日）、4回目が九月十六日（10月28日）、5回目が乾隆二十三年正月五日（1758年2月12日）と5度の通関が知られる。

王裕永と同様に考えてみると1－2回の間が21日間、2－3回の間が18日間、3－4回の間が58日間、4－5回の間が107日間となり、1－3回は一ヶ月以内に3度の通関が見られることから、比較的短距離の航運を行っていた可能性が高い。浙江図書館所蔵の清代抄本の『運河紀略』<sup>23)</sup>によれば、

江南 山陽縣境内運河一百一里限八日

清河縣黃運河四十八里限五日

桃源縣運河九十五里限五日

宿遷縣運河一百五十里限八日

邳州運河一百二十里限四日

以上江南河道共五百八十里限三十日

とあり、漕運に際して要する日数を江南河道は518里を30日と約300kmを30日、一日10kmの計算になることから正聚は淮安關を基点にして南北数10kmの範囲を航運していたものと考えられる。『全国交通營運綫路里程示意圖』に見る「江蘇省内外河主要航綫里程表」によると、徐州から邳縣、宿遷、泗陽、楊庄、清江を経て淮安まで247.5km、淮安から宝應、高郵、邵伯を経て揚州まで

表3 乾隆22-23年淮安關通関商人王永裕の記録

年月日	商人名	張数	商税
220716	王永裕	4	18.146
220812	王永裕	8	12.748
221017	王永裕	13	23.946
221129	王永裕	11	5.661
221216	王永裕	12	24.287

表4 乾隆22-23年淮安關通関商人正聚の記録

年月日	商人名	張数	商税
220607	正聚	11	11.142
220709	正聚	7	7.177
220717	正聚	8	9.276
220916	正聚	10	12.078
230105	正聚	1	15.942

135km<sup>24)</sup>である。徐州から大運河で揚  
州まで382.5kmあった。このことから正  
聚の活動範囲は淮安を中心に北は徐州、  
南は揚州の範囲であったのではないかと  
考えられる。

また同様に短距離航運を行っていたと

思われるのが商人永興である。第1回目は乾隆二十二年九月初一日、第2回目が二十日後の九月二十一日、3回目が十一月初二日、第4回目は乾隆二十三年正月二十六日である。第1回目と第2回目の間が20日と極めて短い、先の『運河紀略』の航運日数から考えて1日10kmとすると往復で最大200km、片道100km範囲となり、北は徐州より以南、南は揚州より以北とその活動範囲は極めて小さくなることが考えられる。北は宿遷(淮安から109km)、南は邵伯(淮安から118.5km)の範囲内での航運であった可能性が高い。

民国『泗陽縣志』巻九、運河に、

在江北者、自瓜儀抵淮安謂之南運河、亦曰裏運河。由清江浦徑入黃河、以達徐州曰中運河、自山東抵天津、曰北運河、総名漕河。<sup>25)</sup>

と見られるように、大運河は江北にあっては長江口の瓜洲、征儀から揚州を経て淮安までを南運河、淮安から徐州までを中運河、徐州から天津までを北運河と呼称されていた。このことから考え商人永興は南運河と中運河の範囲で活動していた商人と考えられる。

ここに見る商人正聚、永興があるが、戴宏美や王永裕のような個人の姓名ではなく、商号、字号であったと見られる。

これらの商人は大運河による水運を利用し船舶を用いて航行し、他人貨物の輸送や自己貨物を輸送して販売する商人等ではなかったであろうか。歴代王朝の専売鹽政策によって、生産された鹽を指定の行鹽地へ販運する商人を“運商”<sup>26)</sup>と呼称されてきた。

鹽商の例であるが淮南鹽を湖廣に輸送し、帰帆に湖南の米を江南輸送してきたことが指摘されている。<sup>27)</sup> 同治『長沙縣志』巻十六、「風土商賈」には、

表5 乾隆22-23年淮安關通關商人永興の記録

年月日	商人名	張数	商税
220901	永 興	12	16.981
220921	永 興	21	20.324
221102	永 興	4	1.163
230126	永 興	5	13.263



大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

秋冬之交，淮南鹽を積載而來，載米而去。

とあるように，淮南鹽を積載して長沙に赴いた船で，帰帆には長沙の米穀を搭載して帰帆していた。雍正十年（1732）二月二十四日付の湖廣總督邁柱の奏摺に，漢口の例が見られる。

…楚省北南，雖獲連年豐稔，米糧價平，但鄰省搬運甚多，皆緣富商大戸，牟利之徒，任意私販，聯檣順流而下，廣爲囤積，是以每年三四月間，楚省因販多而價長，鄰省因囤積而更昂，壟斷罔利，民受其困。今查漢口地方，自去年十一月至本年二月初旬，外販米船，已有四百餘號，而鹽商巨艘，裝運者尤不可以數計，目今米價已漸增。…<sup>28)</sup>

湖南，湖北では毎年のように豊作で米価が廉価であるため近隣の各省から購入に来る富商などが，暴利を貪っている。その輸送船の檣が林立する状態であった。毎年三、四月には湖廣の米価が高くなり，近隣の各省では備蓄された米価の価値が高騰し，人々を苦しめていたのであった。漢口では雍正九年十一月から同十年二月初旬にかけて，湖廣産の米穀を購入するために来航して船舶が400隻以上となり，とりわけ鹽商の船が大型で，その輸送する船の数は数え切れない状況であったとされる。

ここでは，長江の水運を利用して，江南から湖廣へは淮鹽を，湖廣から江南へは米糧を輸送していたことがわかる。このように，内国水運を利用して物資の流通が行われていた。大運河の水運においても同様な事例が見られたことは歴然であろう。

たとえば揚州府治下を航運していた船が，盜賊に襲撃された事例が見られる。

拋揚州府詳，拋甘泉縣詳稱，乾隆二十三年八月初二日，拋事主黃魯卿稟稱，窃身籍属徽州，同店夥汪學等，代客運木，停泊邵伯後河，候風過湖，八月初一日，二更時分，俱各睡熟，被盜。<sup>29)</sup>

乾隆二十三年（1758）八月初二日に，被害者黃魯卿の報告によると，黃魯卿の本籍は徽州に属し，同店の仲間汪學等と，客に替わって木材を運送するため，邵伯後河に停泊し，風を待ち湖を過ぎようとしていた。八月初一日の二更頃に，全員熟睡していたところ被害にあった。乾隆二十三年徽州府の商人が木材輸送

に従事して大運河沿いの西側で揚州の北、高郵の南にある邵伯湖で盗賊の被害にあったのである。徽州木商の具体的活動例である。

淮安府知府の陶易の上申書から鹽城縣知縣朱洛臣の上申書に次のように報告された。乾隆三十九年（1774）六月初六日、被害者であった生員王紀の報告では六月初一日に、王紀が王凡の船に搭乗して淮安府に行こうとしていた。その夜に船が溝口地方で一船に遭遇し、その船の五人が王凡を拉致した。被害地は鹽城縣城から百四十里のところで、村舎も無く、監視の汛地も無いところであった。

鹽城縣城外、行舟被盜…挾淮安府知府陶易詳、挾鹽城縣知縣朱洛臣詳称、乾隆三十九年六月初六日、挾事主生員王紀報称、本月初壹日、生坐王凡船隻往淮、彼晚船至相近流均溝口地方、遇有壹船在船伍人、阻生去路、壹人上船、将生拉出船艙、生同船戶王凡、驚落下水。…被盜處所、相距縣城、壹百肆拾里、並無村舎、亦無墩防營汛。<sup>30)</sup>

とある。乾隆三十九年（1774）鹽城縣の生員が上級府の淮安府に赴くために船舶を使用した例である。現在でも鹽城と淮安の間は、直線距離では70余 km であるが、陸路では138km であるのに、水上航路距離では120km ほどある。水路が輻輳しているため陸路より水路の方が遙かに便利であったろう。この場合は移動のために水運を利用していた。

上記に掲げた淮安關において商税を納めた商人達のほとんどが、このような水運を利用して、物資の流通に貢献し、またその業務を専門に行う商人達がいたことは確実であろう。

#### 4 小結

乾隆二十二年分「淮安關監督普福進呈黃冊」の考察によって、淮安關の商税徴収額のみならず、淮安關において商税を支払い通過して、大運河を北上、南下していた船舶が乾隆二十二年（1757）四月から乾隆二十三年四月までの1年間に4千余隻の通関が知られるのである。

これらの船舶は大運河を北へ南へと航行し、首都北京で消費される品々の供給や、江南で消費される物資の流通に貢献していた。その流通を可能にした水

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

運専門業者の存在が知られるのである。かれらは運河航行の船を操船して北へとまたは南へと航行し、大運河沿岸の港市に寄港して物流を円滑にしたのである。僅か一年分のものではあるが、海上の季節風を利用する航運とは異なるとは言え、季節的変動が見られ、とくに旧暦正月には航運活動が激減している。これは中国の伝統的な年中行事と深く関係する傾向が如実に示しているであろう。

これら大運河を航行する水運専門業者すなわち民船による商業活動を行った商人の存在はこれまでほとんど注目されることはなかったが、乾隆二十二年分「淮安關監督普福進呈黃冊」の調査を通じてその存在が明らかになったと言えるであろう。海上を航運していた商人の活動<sup>31)</sup>はすでに知られているが、このような内陸河川を航行していた商人の存在の解明は今後の大きな課題であると言えるであろう。

表6 乾隆二十二年“淮安關黃冊”に見る商人名表

西暦年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
17570529	220412	張祥發	10	4.87
	220413	李 大	13	6.441
	220414	陳良必	15	10.392
17570601	220415	陳効陶	7	4.948
	220416	廣 茂	23	36.934
	220417	戴宏美	25	13.96
	220418	楊 克	28	16.056
	220419	胡明茂	51	64.71
	220420	汝 文	7	7.918
	220421	鼎 隆	19	26.101
	220423	陳 永	10	20.005
	220424	孫孝先	28	30.278
	220425	王 大	17	12.842
	220426	德 祥	8	16.037
	220427	張 克	20	36.9
	220428	劉恒武	21	23.103
	220429	刁 文	17	16.106
17570616	220501	劉憲章	12	22.765
	220502	劉 美	16	21.972
	220503	李 仁	6	3.539
	220504	林恒裕	24	86.497

## 關西大學『文學論集』第69卷第1号

西曆年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	220505	呂 相	14	60.875
	220506	王 順	19	29.564
	220507	張 兆	13	3.532
	220508	恒 昌	6	6.792
	220509	大 來	19	19.056
	220510	允 升	3	0.893
	220511	董 大	7	1.373
	220512	陳 和	13	24.192
	220513	金正聚	7	12.362
	220514	戴宏美	10	19.525
	220515	周 文	19	53.431
17570701	220516	永 升	12	20.476
	220517	宏 興	35	48.644
	220518	阮公和	10	1.952
	220519	景 祺	9	4.597
	220520	李 友	12	86.957
	220521	楊允昇	44	89.54
	220522	張天聚	3	0.576
	220523	景 祺	15	28.202
	220524	宏 恒	8	16.95
	220525	王 克	6	8.677
	220526	王恒太	16	10.571
	220527	天 益	5	6.816
	220528	高 錦	15	45.312
	220529	朱 大	4	24.518
	220530	張 元	1	0.772
17570716	220601	林恒裕	16	39.237
	220602	余光華	22	95.482
	220603	金 克	4	1.455
	220604	日 升	20	52.962
	220605	趾 記	13	18.546
	220606	王景文	7	25.678
	220607	正 聚	11	11.142
	220608	孫 大	5	18.882
	220609	潘 文	33	59.44
	220610	殷 盛	9	5.707
	220611	楊 景	3	6.384

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

西暦年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	220612	楊 太	6	3.645
	220613	張永和	12	10.615
	220614	恒 足	5	9.356
	220615	謝興世	36	42.252
	220616	查 克	22	47.334
17570801	220617	魏同盛	17	21.989
	220618	朱 易	20	16.333
	220619	楊 士	30	31.594
	220620	義 生	21	34.525
	220621	恒 盛	27	38.501
	220622	沈 克	19	9.709
	220623	顧盛公	38	17.978
	220624	有 源	5	4.891
	220625	袁貢先	6	5.479
	220626	呂 嘉	6	3.448
	220627	廣 盛	6	1.767
	220628	潘 克	5	8.27
	220629	泰 來	7	2.306
	220630	戴宏美	9	5.322
17570815	220701	蔡 元	9	33.3
	220702	劉 玉	12	23.894
	220703	李天祥	7	14.12
	220704	趙 玉	1	1
	220705	任 文	5	6.327
	220706	王萬順	14	13.827
	220707	查 大	6	9.261
	220708	裕 順	20	11.845
	220709	正 聚	7	7.177
	220710	林恒裕	2	10.933
	220711	楊 春	14	23.592
	220712	宏 美	8	3.127
	220713	恒 升	11	10.064
	220714	戴宏美	14	41.844
	220715	郭起交	7	8.778
	220716	王永裕	4	18.146
	220717	正 聚	8	9.276
17070901	220718	吳 祥	16	10.625

## 關西大學『文學論集』第69卷第1号

西曆年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	220719	胡永祥	7	22.224
	220720	韓 大	5	0.244
	220721	鄭 洪	10	18.606
	220722	趙 葛	19	19.013
	220723	大 來	14	28.769
	220724	萬 隆	11	10.094
	220725	協 盛	14	3.369
	220726	高 升	7	31.227
	220727	張 克	12	83.082
	220728	張 文	5	25.912
	220729	鼎 興	19	46.837
17570913	220801	源 茂	7	11.833
	220802	王 大	6	11.072
	220803	大 興	8	5.456
	220804	公兆昇	10	71.254
	220805	孫應茂	5	9.693
	220806	田 必	21	17.769
	220807	戴宏美	9	4.49
	220808	孫恒益	7	13.283
	220809	褚振緒	2	0.835
	220810	尹光生	11	13.115
	220811	閆 標	7	7.46
	220812	王永裕	8	12.748
	220813	新 盛	13	21.428
	220814	金 萬	23	35.137
	220815	正 萬	8	21.276
	220816	季 文	12	6.994
	220817	許 太	11	19.451
	220818	王 進	33	70.168
17571001	220819	順 利	15	5.305
	220820	郭 大	10	16.213
	220821	胡隆順	4	5.215
	220822	劉 大	20	37.957
	220823	張 玉	12	22.425
	220824	汪 文	10	8.198
	220825	錢萬順	5	7.901
	220826	瑞 克	5	9.906

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

西暦年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	220827	恒 泰	13	28.899
	220828	徐 成	17	47.117
	220829	戴 克	13	43.728
	220830	朝 升	12	29.618
17571012	220901	永 興	12	16.981
	220902	潘大興	10	21.088
	220903	廣 裕	13	46.962
	220904	萬 順	21	44.135
	220905	許 文	4	8.533
	220906	吳永祥	13	39.849
	220907	周 克	8	10.865
	220908	余泰春	62	32.506
	220909	生生號	6	10.218
	220910	謙 裕	16	32.157
	220911	戴宏美	13	56.931
	220912	張 大	5	4.098
	220913	廖正華	11	21.126
	220914	解 克	6	9.137
	220915	江洪遠	17	78.685
	220916	正 聚	10	12.078
	220917	談 記	11	29.699
	220918	姚洪海	37	29.524
	220919	陳 克	9	21.607
19571101	220920	泰 春	17	49.182
	220921	永 興	21	20.324
	220922	百 順	19	14.162
	220923	包 起	25	57.764
	220924	恒 足	21	29.965
	220925	張 奎	20	52.109
	220926	張茂昌	17	59.099
	220927	華永貴	12	26.591
	220928	徐太和	17	17.807
	220929	義 興	45	15.357
	220930	黃恒春	18	56.885
17571112	221001	王 印	20	87.939
	221002	談 正	17	16.294
	221003	兆永聚	19	127.536

西曆年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	221004	復 興	20	17.342
	221005	和 興	30	18.247
	221006	同 太	21	22.22
	221007	謙 裕	10	24.946
	221008	楊東升	10	19.826
	221009	沈大年	12	19.139
	221010	徐義源	8	18.269
	201011	王 有	13	14.648
	201012	丁 元	13	4.666
	221013	徐公興	11	13.635
	221014	趙恒升	8	32.396
	221015	王 有	21	63.773
	221016	黃 欽	8	14.599
	221017	王永裕	13	23.946
	221018	汪鼎隆	9	20.748
	221019	永 泰	5	6.601
17571201	221020	林茂昌	9	13.7
	221021	朱萬和	14	3.179
	221022	馮萬順	11	22.688
	221023	孫恒益	4	6.345
	221024	朱 大	5	5.124
	221025	永 昌	4	1.334
	221026	梅恒裕	4	16.792
	221027	袁 文	6	1.723
	221028	復 興	16	21.967
	221029	公 和	22	65.111
19571211	221101	陳大本	14	11
	221102	永 興	4	1.163
	221103	魏 克	11	13.195
	221104	啓 源	10	31.186
	221105	陳 大	19	34.515
	221106	潘 大	15	51.1
	221107	益 順	15	13.613
	221108	永 隆	16	17.02
	221109	劉公興	6	4.405
	221110	高 克	8	3.005
	221111	胡明茂	15	13.232



大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

西暦年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	221112	周宏興	8	13.099
	221113	高 克	15	11.77
	221114	郭 福	17	12.75
	221115	蔣 克	9	2.301
	221116	林恒裕	18	28.076
	221117	陸 恒	10	16.009
	221118	靳高玉	12	18.548
	221119	陳 牲	21	31.238
	221120	義 和	7	5.905
	221121	嵇 克	10	5.896
17580101	221122	富 春	7	7.791
	221123	王 文	10	5.516
	221124	查 洪	6	2.257
	221125	陳 文	18	44.529
	221126	正 茂	8	11.77
	221127	喬 其	4	1.646
	221128	公 興	2	1.492
	221129	王永裕	11	5.661
	221130	義 茂	22	68.468
19580110	221201	許敬先	18	29.843
	221202	夏 大	13	11.428
	221203	褚君先	20	38.914
	221204	化君錫	7	5.536
	221205	德 裕	13	13.537
	221206	宏 昌	9	9.288
	221207	恒公中	21	33.538
	221208	恒 益	7	3.315
	221209	啓 豐	19	10.799
	221210	項 大	24	9.976
	221211	吳伯揚	15	5.98
	221212	廣 源	8	8.019
	221213	韋 克	11	5.918
	221214	楊義和	12	20.475
	221215	胡 遠	3	4.325
	221216	王永裕	12	24.287
	221217	徐公茂	12	12.497
	221218	胡 遠	18	16.375

西曆年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	221219	陳玉和	14	12.497
	221220	陳 大	6	2.28
	221221	王 克	17	10.018
	221222	張 玉	13	77.393
17580201	221223	李 成	26	25.758
	221224	李 得	22	63.085
	221225	啓廣源	6	9.534
	221226	日 升	13	40.711
	221227	隆 昌	17	32.209
	221228	馮有才	18	42.841
	221229	戴宏美	8	25.787
17580208	230101	汝殿楊	1	0.174
	230102		0	0
	230103		0	0
	230104	劉 殿	1	0.76
	230105	正 聚	1	15.942
	230106		0	0
	230107	瑞和春	5	22.941
	230108	王 三	11	24.509
	230109	天 和	5	8.133
	230110	薛 起	9	21.862
	230111	薛文元	1	2.851
	230112	劉興順	3	5.996
	230113		0	0
	230114	公恒和	1	2.929
	230115	馬 克	4	4.958
	230116	永 隆	1	1.457
	230117	陳 恒	2	1.68
	230118	廣 大	2	1.678
	230119		0	0
	230120	邱應芳	2	0.16
	230121	汪鼎隆	4	4.171
17580301	230122	廣 大	14	55.338
	230123	邵 大	16	31.355
	230124	戴永太	9	13.451
	230125	金 永	3	3.313
	230126	永 興	5	13.263

大運河航行の民船商人—乾隆二十二年“淮安關黃冊”を中心に—（松浦）

西暦年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	230127	永 聖	3	6.356
	230128	索祥發	15	15.228
	230129	任五公	8	22.705
17580309	230201	陳 周	2	3.533
	230202	陳 開	3	1.352
	230203	同 泰	8	6.804
	230204	王 大	8	16.185
	230205	永 茂	26	22.325
	230206	馬起龍	6	2.104
	230207	張 成	5	11.663
	230208	周宏興	8	15.028
	230209	劉 時	7	6.774
	230210	萬 也	5	6.504
	230211	萬 盛	5	12.667
	230212	張方蔣	13	8.04
	230213	鼎 隆	7	6.002
	230214	陳効陶	10	20.69
	230215	劉景祺	15	28.441
	230216	王 祥	6	18.744
	230217	永 茂	11	3.744
	230218	葉 懷	11	9.35
	230219	陸恒盛	17	22.83
	230220	天 益	11	42.3
	230221	萬 順	18	63.025
	230222	徐義源	6	11.98
	230223	徐宏興	13	59.947
17580401	230224	大 興	11	24.155
	230225	徐 克	14	18.421
	230226	源 全	13	45.465
	230227	大 興	7	5.893
	230228	沈裕順	17	29.441
	230229	凌子龍	19	19.511
	230230	鼎 興	55	38.671
17580408	230301	景 祺	8	12.711
	230302	雷 貴	4	3.246
	230303	滙 純	6	11.727
	230304	萬 順	8	7.031

西曆年月日	乾隆年月日	商人名	張數	稅額（兩）
	230305	雷 克	8	4.65
	230306	伏廣聚	11	5.623
	230307	大 興	12	26.084
	230308	陸 大	11	4.39
	230309	趙 大	5	1.985
	230310	王 義	15	23.949
	230311	許復興	14	10.233
	230312	錢萬順	18	19.945
	230313	伍廷元	12	15.558
	230314	公恒興	24	26.848
	230315	余泰春	4	4.631
	230316	施 克	16	20.551
	230317	季景昭	11	12.052
	230318	楊 書	13	12.875
	230319	余永盛	20	13.927
	230320	永 盛	6	21.407
	230321	趙 萬	13	13.283
	230322	馬 雲	9	8.386
	230323	江大有	8	7.739
17580501	230324	馬 春	14	39.237
	230325	德 和	7	16.692
	230326	戴宏美	5	6.939
	230327	曹 克	23	35.408
	230328	胡 克	14	4.53
	230329	大 興	18	43.714
17580507	230401	葉明觀	11	44.26
	230402	薛萬元	9	6.015
	230403	徐 大	7	19.044
	230404	張大來	12	15.702
	230405	卞 元	17	5.02
	230406	朱茂興	5	3.211
	230407	任得源	15	48.444
	230408	曹隆興	8	24.055
	230409	魏 大	14	7.12
	230410	周宏興	17	18.099
17580517	230411	呂 克	28	11.729

注

- 1) 関税類, 税課錢糧の目録に見られものを参照した。國立北平故宮博物院文獻館編『内閣大庫現存清代漢文黃冊目録』, 1936年3月弁言, 臺灣・台聯國風出版社影印, (出版年不明) 98-103頁。弁言によれば, 1936年3月時点で内閣大庫の漢文黃冊は6,000余本あるとされるが, 本稿で使用した黃冊はこの目録には見られない。
- 2) 香坂昌紀「清代における大運河の物貨流通—乾隆年間, 淮安関を中心として—」, 『東北学院大学論集 歴史学・地理学』第15号, 1985年3月, 1-64頁。
- 3) 滝野正二郎「清代淮安関の構成と機能について」, 『九州大学東洋史論集』第14号, 1985年12月, 116-156頁。
- 4) 卞光明「史上淮鹽集散地」, 『中国鹽業』2011年23期, 2011年12月。
- 5) 松浦章「清代大運河の航運」, 松浦章『清代内河水運史の研究』第2編, 関西大学出版部, 2009年2月, 69-137頁。
- 6) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 中国檔案出版社, 2011年4月, 1-578頁。
- 7) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 171-244頁。
- 8) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 171頁。
- 9) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 172頁。
- 10) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 173頁。
- 11) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 240頁。
- 12) 中国第一歴史檔案館・江蘇省淮安市人民政府編『清宮淮安檔案精萃』, 221-222頁。
- 13) 『續纂淮關統志』, 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 莊嚴文化事業, 1996年8月, 777頁。
- 14) 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 786頁。
- 15) 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 777頁。
- 16) 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 781頁。
- 17) 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 783頁。
- 18) 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 785頁。
- 19) 松浦章著, 李小林譯『清代海外貿易研究』下冊, 天津人民出版社, 2016年5月, 377-395頁。
- 20) 『四庫全書存目叢書・史部二七三』, 785頁。
- 21) 中国第一歴史檔案館蔵, 宮中朱批奏摺, 財政類, 漕運類, マイクロフィルム10巻856葉。
- 22) 『宮中檔乾隆朝奏摺』第61輯, 国立故宮博物院, 1987年5月, 604頁。
- 23) 浙江省図書館古籍部, 浙江図書館善本 乙 登記号: 004465。
- 24) 『全国交通營運綫路里程示意圖』(第二版) 人民交通出版社, 1973年8月第一版, 1983年6月第二版第三次印刷, 「江蘇省内内河主要航綫里程表」40頁。
- 25) 民国15年(1926) 鉛印本『泗陽縣志』全25巻本による。
- 26) 斯波義信編『中国社会経済史用語解』東京・東洋文庫, 2012年4月, 107(1-556)頁。
- 27) 佐伯富『清代鹽政の研究』京都・東洋史研究会, 1956年10月, 307頁。

- 28) 『宮中檔雍正朝奏摺』第19輯, 1979年5月, 482頁。
- 29) 『明清檔案』 A198-118
- 30) 『明清檔案』 A222-122
- 31) Ng Chin-Keong, Trade and Society; The Amoy Network on the China Coast 1683-1735 (厦門的興起), Singapore U. O., 1983, pp.153-183. Second Edition, 2015, pp.153-184.
- 吳振強著, 詹朝霞・胡舒揚譯『厦門的興起』厦門大学出版社, 2018年12月, 137-161頁。
- 松浦章『清代海外貿易史の研究』朋友書店, 2001年2月, 208-261頁。
- 松浦章『中国の海商と海賊』(世界史リブレット63) 山川出版社, 2003年12月, 69-75頁。
- 松浦章『清代帆船沿海航運史の研究』関西大学出版部, 2010年1月、26-60頁。